

三千種四万株が咲き乱れた「かのやばら園」(鹿屋市浜田町)の「ばら祭り秋」が十一月末で終わった。約八分の同園は質量とも日本最大規模を誇り、毎年春と秋の祭り期間中は色とりどりのバラが見る者を魅了する。

そのばら園。祭り期間中以外は「バラがない」と思う人は多いだろう。ところが同園の門倉美博園長いわく、一月中旬まで「見ごろです」。

同園では、寒くても咲く「寒バラ」が南国の地の利を生かし全国で唯一鑑賞できる。本数こそ少ないが「銀世界」や「正雪」など冬を連想させる品種も多く、門倉園長は「二輪一輪を見てほしい。寒くなるほど色鮮やかで香りが豊か」と自信を見

ス マ ス ク リ ト ホ イ ト ク リ ス マ ス

せる。

中でもお勧めは、上品な香りを漂わせ雪のように白い「ホワイトクリスマス」。ホワイトクリスマスといえは十二月二十四、二十五日に雪が降り積もることだが、鹿児島地方気象台によると、両日中の観測は三十五年前が最後という。

そんなめったにお目にかかれないホワイトクリスマス。しかし、ばら園ではひと味違って堪能することができる。園内数カ所に咲いており、探すだけでも楽しめる。

同園は日本プライタル協会などが選ぶ「恋人の聖地」でもある。「ホワイトクリスマスを見つければ幸せになれる」。多くの来園客にそのような伝説をつくってほしい。